

デジタルの恩恵

ひと昔前までは手で書いて郵送に数日掛かっていた手紙や資料も、今では当たり前のように入パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器を使って手軽にやり取りできるようになりました。私たちは、普段は意識していなくても、日々の暮らしの中でさまざまなデジタルの恩恵を受けています。今回は、その中から最も身近な例をいくつか紹介します。

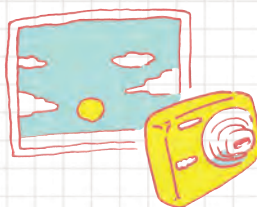


地図・カーナビ



GPS機能で、自分が今どこにいるかが分かる。

カメラ



フィルムも現像も必要なし。携帯電話などでも簡単に撮影・保存できる。

読書



重い本を持ち歩かなくても、電子端末で手軽に読める。

ショッピング

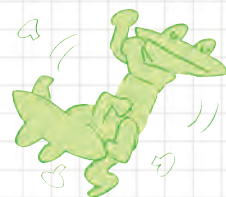


パソコンやスマートフォンで24時間どこにいても買い物ができる。

音楽



レコードやカセットテープを保管する必要がなく、小さなプレーヤーでどこでも聴ける。



Q 電子カルテ内の個人情報の管理はどうなっているの？

A 電子カルテ内の個人情報の保護について、兵庫医科大学病院では以下のような取り組みを行っています。

- 電子カルテのデータはサーバー内に一元管理し、厳重なセキュリティ対策を施しています。パソコン上にデータが残ることはありません。
- 厚生労働省のガイドラインに基づき、パスワードは定期的に変更しています。
- 診療データの作成や変更・閲覧者を明確にし、不正アクセスを防止するために、アクセスログを記録・管理しています。
- データの外部への流出を防ぐため、USBメモリなどのデータ伝送機器は電子カルテの各端末（パソコン）には接続することができないようになっています。

そのほか、年1回以上、医療者全員を対象にした個人情報保護に関する講習会を行っています。



事務・会計



受付・会計の効率化
カルテ管理業務の軽減

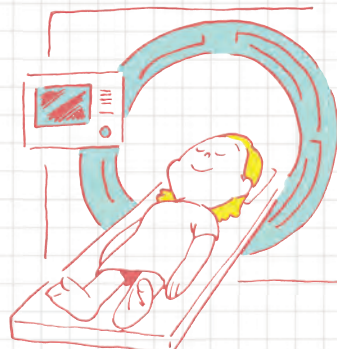
医事会計システムとの連動

会計の効率化などによる待ち時間の短縮

医事会計システムとの連動によって、診察終了から会計までの流れがスムーズになり、待ち時間の短縮などにつながっています。

デジタルの恩恵

検査



各検査部門のシステムと連携
約40のシステムと連携

検査のオーダー（内容や予約時間など）
X線・CT・MRI・内視鏡などの画像参照
各種検査結果の参照

検査結果の共有による質の高い医療の推進

検査の結果や画像を以前のものと比較しやすくなったほか、院内の他部門などとの正確で迅速な情報共有が可能となりました。

デジタルの恩恵

病棟



病棟管理・看護記録
患者さんの情報確認
薬の管理・栄養管理

チーム医療の連携促進

患者さんにまつわる情報をさまざまな職種のスタッフが共有でき、より質の高いチーム医療を実践できるようになりました。

デジタルの恩恵

医師



診療結果の記入
各部門への指示
診察予約

病状・治療方針説明への活用

患者さんやご家族にMRIやCTなどの画像や検査結果をご覧いただきながら、分かりやすく病状説明ができるようになりました。

デジタルの恩恵

電子カルテシステム

電子カルテには、患者さんの氏名・診療記録・病名・検査履歴・検査写真などが含まれており、診療の効率化や正確な治療に役立ちます。兵庫医科大学病院でも2013年から電子カルテを導入しています。

デジタルの恩恵は医療分野にも！

電子カルテの導入や検査機器のデジタル化によって、医療分野でもデジタルの恩恵がもたらされています。

